

## (5) 第2の東京問題について

### 想定課題

東京から国会等が移転して来ることによって、那須地域に、東京と同じような大都市が生まれ、一極集中や過密のような第2の東京問題が生じないか。

### 対応方向

国会等移転審議会では、移転に伴い新しく整備される都市のイメージについても検討されました。その結果を取りまとめたパンフレットの冒頭には、「低層の建物群が見えます。周囲には山々が連なり、水田が広がり、小さな森が点在しています。このゆたかな自然に抱かれた都市こそが、国の立法・行政・司法という三権の中核機能が集まる国会都市なのです。新都市といえば、ニューヨークの摩天楼や新宿副都心の高層ビル街を思い浮かべがちですが、そんなイメージとは正反対の顔になるのです。」と書かれています。

また、答申でも、移転先となる新都市の在り方として、新都市の整備に当たり特段の配慮が望まれる事項の一つに「環境への配慮」が掲げられており、「様々な知識と技術を積極的に導入して、現状の良好な環境の保全に十分な配慮を払うとともに、新たな自然的環境を積極的に創り出すことにより、人と自然が近接し、環境と共生する先導的な都市として、世界の範となるよう努めるべきである。」と書かれています。

このように、国会等の移転に伴い整備される都市は、自然を破壊することによって成り立ってきた20世紀型の都市とは異なり、環境の世紀と言われている21世紀にふさわしい自然環境と共生する新しい都市となるものと考えられます。現在、首都機能が東京にあるため、首都機能移転というと東京がそっくりそのまま移転してくるような錯覚を覚える人も多いかもしれませんが、あくまでも、国会や行政・司法の中核機能の移転であり、東京の持っている経済・文化の中核機能が移転してくるものではありません。

特に、審議会から移転先候補地に選定された栃木・福島地域には、広大な圏域の中に、既存の個性豊かな小都市群があり、全て新たな開発によらなくても、ある程度の機能を受け入れられる体力が既に備わっています。

したがって、現在の東京とは全く異なる、自然と都市が調和した21世紀に相応しい、コンパクトなモデル都市群が実現できると考えます。